

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号: 9 事業名: 富士山登山道安全対策費

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
<p>村上アドバイザー</p>	<p>・パトロールは週に2人1組で3回、直営パトロールは県職員が行っているのか。</p> <p>・登山道パトロール業務委託経費の積算根拠のなかにある一般管理費が33.5%については、建設業務の割合を適用しているという説明だが、例えば資材がいくらでカメラ、消耗品など作業着代とか、そういった具体的な数字を示すことはできないのか。</p>	<p>課長 小島一男</p>	<p>・そのとおり。</p> <p>・主に富士東部建設事務所吉田支所の職員で2人1組のチームを編成し、木曜日と金曜日に登っているが、職員にとって相当な負担である。</p> <p>・富士山は標高差があり、体力的にとっても厳しい。このため、全て業務委託が良いのではないかという議論はあるが、職員自らが現場を見るということで、状況を把握しやすいということもあるので週に1回職員が、順番に当番で廻っている。</p> <p>・ロープを結束するペンチ、トランシーバー、携帯電話等、必要なものが多岐にわたるので、積み上げて積算ができない。</p> <p>・今回の業務委託については、内容的に道路維持工事に近いということで積算基準における道路維持工事の率計算を適用している。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小澤アドバイザー	<p>・管理センターとの連絡を密にしながらやっているようだが、ケガや病人が出た場合にパトロール員も加わり一緒に対応しているのか。</p>	課長 小島一男	<p>・委託業務の目的が道路パトロールであるので、救護にあたる、医療行為を含め、一緒に対応は行わない。</p> <p>・パトロール中にケガや病人を発見したときは、もちろん管理センターへの連絡などの協力は行っている。</p>
小口アドバイザー	<p>・パトロールチェックリストは、本人達が持ってくるのか。パトロール日誌はEXCELで提出しているのか。</p> <p>・誰かがまとめているのではないか。本人達がEXCELで日誌とともに提出しているのか。</p> <p>・委託業者がロープ切れを発見し、その対処をしなければいけないと、委託業者が工事業者に連絡しているようだが、これがスムーズに対処できたかのチェックを委託業者任せではいけないと思う。委託業者はどの時点で工事業者や県に連絡や報告を行うのか。</p> <p>・報告内容において、管理センターでの時間の記入を行う必要があること、それらを何日以内で処理する等がマニュアルとして定められているのか。</p>	課長 小島一男	<p>・そのとおり。</p> <p>・本人達が下山後に日誌とともに事務所に提出している。</p> <p>・当然のことだが、業者間だけでは対処していない。必ず県への報告も行いながら同時並行的に進めている。</p> <p>・例えば、ロープが外れていて直さなければならない場合、工事業者への連絡と同時に県の出先事務所にも連絡を行い、ロープ切れについての対応を協議している。県も工事業者に連絡し、ロープ切れについて、いつ何人で現場に行くのか等の確認をしながら、作業を依頼している。</p> <p>・いつ何をどのようにということについて明文化はしていない。委託業者の経験は長く、慣例に準じて業務を遂行している。直さなければならないものは、委託業者や工事業者と協議しながら早急に対応している。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー	<p>・日誌において、出発の時間が書いてあるが、帰りの時間が書いていないなど、業者の方も慣れがあり、業務に対する甘さがあるのではないか。</p> <p>・現場写真は日付など入れるのではないのか。</p> <p>・大変な業務だと思うが、県が直営でもパトロールをやらないといけないのか。他県の場合はどうか。</p>	課長 小島一男	<p>・そのとおりだが、これまで瑕疵がないということは理解いただきたい。早急に対応できていて事故のないような形を実現できている。</p> <p>・危ない状態になると、そこに登山者が踏み入れないように、規制帯を張る等の対策を講じている。</p> <p>・写真データ自体に日付情報は含まれており、日付情報は変更ができないことになっている。日付を変更した場合は、検査で検出される。1冊は、見える形と、あとは、電子データでもらっている。</p> <p>・静岡県においても県職員が登っていると思われるが、山梨県側の吉田口登山道は登山者の数が桁違いに多いこと等から、県が自ら行うべきだとする考え方が伝統的にある。</p> <p>・その一方で現実的には職員数もかなり少なく、2週間に1回程度の実施でいいのではないか等の議論はある。</p> <p>・大変な業務ではあるが、富士山を守るため、登山者を守るため、担当職員のみならず、事務職員や本庁職員も含めパトロールを行う等、本庁・事務所全体で担っている。今年も当課から3人応援に行っている。</p> <p>・様々な経験を積ませるという視点に立ち、若手職員を中心にパトロールしている。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー	<p>・職員の安全とか健康を考えたときに、厳しすぎる業務であり、今後、マニュアル等を整備し、チェック等をしっかりして、信頼関係ができた上で、直営パトロールの回数を減らしていくということは、一つの方向かと考えられると思うが、業者や職員は天候が悪い場合はどうしているのか。</p>	課長 小島一男	<p>・基本的には天候に関わらず、嵐でもパトロールは実施している。天候が悪い時は、とても気温が低く寒い。あまりにも天候が悪い場合には、現場で待機している。なお、山小屋は予約している登山者の受入で一杯なので避難していない。</p>